

学習内容報告書 フォーマット

学校名	山形県鶴岡市立大山小学校
授業者	3年担任：五十嵐 真、小坂 梨紗

1. 単元計画

1-1. 単元名

感じよう 伝えよう 大山の自然（黒鯛の稚魚放流）

1-2. 学年

第3学年

1-3. 教科

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

- ・学区にある自然学習交流館「ほとりあ」と連携し、地域にある都沢湿地の生き物や下池の水質調査などを行う。
- ・海の生き物との比較しながらのまとめ活動を行う中で、地域の自然のすばらしさについて気づききっかけとなるような単元づくりを行う。
- ・加茂水産高校と連携し、豊かな海を守るための放流活動を体験する。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

ほとりあ学習や稚魚の放流活動を通して、地域の自然についての興味や関心を持つことができる。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

◇知識・技能

- ・地域の湿地や池には、たくさんの生き物がいることを知り、海の生き物との違いに興味を持つ。

◇思考力・判断力・表現力

- ・ほとりあ学習や稚魚の放流活動などを通して知ったこと、わかったこと、不思議に思ったことを自分なりの表現の仕方でもとめることができる。

◇学びに向かう人間性

- ・興味や関心を持ちながら、活動に取り組もうとする。
- ・学習を通して、海の生き物のおもしろさや不思議さを感じることができる。

1-7. 単元の展開（全5時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>総合的な学習の時間</p> <p>○活動オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動のめあてを確認 ・活動内容を知る。 	<p>◆ねらいを理解させる。</p> <p>→単に放流活動に行くだけではなく、大切な海資源を未来につなぐ活動の一つであることを児童が理解した上で活動に臨めるように事前にしっかりと指導。</p>
2 ～ 4	<p>総合的な学習の時間</p> <p>○クロダイの稚魚の放流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加茂水産高等学校の協力を得て、稚魚の放流。 ・栽培漁業についてのお話も聞く。 <p>※校外学習として午前中3時間の計画で実施</p>	<p>■加茂水産高校の方々から協力をいただく。</p>
5	<p>総合的な学習の時間</p> <p>○放流活動のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロダイの稚魚の絵と文で体験をまとめる。 ・初めて知ったことや驚いたことを感想シートに記入。 	<p>◇放流活動を通して、知ったことや不思議に思ったことを自分なりにまとめることができたか。</p>

2. 学習活動の実際



2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

2-2. 本時の目標

クロダイの稚魚の放流活動を通して、地域の自然についての興味や関心を深めることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<p>1 活動のめあての確認</p> <p>2 加茂水産高校へ移動 (スクールバス)</p> <p>3 ヒラメ・クロダイ合同放流開会式</p> <p>4 クロダイ学習・放流活動</p>  <p>5 閉会式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の感想発表 <p>6 活動の振り返り (各教室)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加茂水産高校の方々の協力 ・ヒラメの栽培漁業についての話もお聞きする。 →5年社会科へのつながり。 ・放流活動の際の注意点に気をつけながら活動するよう声をかける。 ・学校での振り返りに使えるよう、稚魚の大きさにも目を向けさせるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> ・クロダイの成魚の大きさを示しながら、稚魚との比較をさせていく。 ・ほとりあ学習で調べてきた下池や湿地でくらす生きものとの違いにも目を向けさせる。

3. 今回の活動の自己評価

○成果 ▼課題

○クロダイの放流活動については、昨年まで5年生で実施していたが、今年度から3年生での実施となった。栽培漁業についての学習は5年社会科の内容のため、当日、行われなかったが、放流活動については3年生が行っても十分楽しめ、海の生きものに対する興味や関心につながる活動であった。

▼この活動の前まで、ほとりあ学習（下池や湿地などの調べ学習）を中心に行ってきたため、海活動とのつながりの部分をもっと丁寧に計画していく必要があった。

4. 今後の課題

ほとりあ学習と海の学習がそれぞれ単発の学習活動にならないよう、年間の活動の計画を立てる段階で、活動の流れや活動と活動のつなぎ目のイメージをしっかりと持ちながら単元を構成していくことが必要だった。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

学習内容報告に書かれたものは、一活動でしかないが、この活動と前後の活動のつながりやそれぞれのねらいを明確に持ちながら単元作りを行うことが大切だと感じた。